

「生みやすく育てやすく働きやすい21世紀のために」

2001・2・27

エスク代表 名木 純子

* 「もっと厳しく、もっと暖かく、」

今日の日本が抱えてしまった人間づくりに関わる問題点を見つめて、27年

* 「事故が多発してから信号を点けなくなかったエスクは、こども達が歪んでゆくと感じて、もっと自然に、もっと健康的にと呼び掛け、眠っている地域の力を呼び覚まし、集めて繋がりを育ててきました。

* こどもたちの健やかな育ちのためには、「厳しくて優しい子育て」が求められるのに今働く若い親達の子育ては、「きつくて甘い子育て」となっている傾向です。

* キーワードはご存じ「教育」と「環境」です。

* 教育者の間ではこれをご存じ「三間不足」、「時間と空間と仲間が足りない」というのです。

* 教育の世界では「知育」「徳育」「体育」を柱としていますが、エスクでは「食育」を強くアピールしますし、学んでいます。

* 「環境」については、人間のための環境は多くは人間が創るわけですから、その作り方の工夫次第で、自然ともっとよりよく共存共栄できる筈のものです。

* 皆判っていることですが、上手くゆかないのは、教育の課程（人づくりのプロセス）で「高等価値感情」を育て損なっているためです。

* 「5感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）をフル活動させて育てる」と「体験学習」を主張する割には、「IQ」ばかりを評価して「EQ」を疎かにしてきたのです。

* この「EQ」こそが、前述の「高等価値感情」を司るもののなのです。

「真、善、美、聖」などを感じ取る知性です。

*そしてこの「第6感、第7感、第8感」（発達心理学の世界では「前庭覚、固有覚、内蔵覚」というと思います）が、胎児から0才1才時代に芽をふくというのです。

*自然で健康的なこどもの世界が守られたなら、、これらを損なわずに人らしく成長するでしょう。あまりにも当たり前のことが、忘れられてきたようです。

「楽しい育児、明るい介護」を巡って、、

*無理のない、無駄のない、自然で健康的な「家庭保育と在宅介護」を、、

*必要な人にはすべて、いつでも、どこでも、だれでも、、利用できる。
究極のバリアフリーのネットワークを求めて活動してきましたら、今のエスクになりました。